

ときめき人

Tokimeki bito



嵯峨立甚句保存会

9月1日(日)水の里ホール・Abebisou
で開催される「登米市民俗芸能大会」に
出演予定です。ぜひ、ご来場ください。

「♪唄いなされや声はりあげて 唄は仕事のはずみもの」。東和町錦織地区に伝わる「嵯峨立甚句」は、農作業唄として500年前から地域の人々に親しまれてきたとされる。素朴な中にも哀調を帯びた歌詞と曲調に合わせて踊られる振り付けは1番から5番まで異なり、甚句を一層印象付ける。

地域住民により保存会が設立されたのは1971年。祭りや民俗芸能大会で踊りを披露するほか、地元の小学校で継承活動を続けてきた。運動会で毎年実演されてきた児童らの踊りだが、学校再編により、錦織小は来年統合される。「2008年に旧嵯峨立小が閉校し、錦織小へ甚句が引き継がれてから16年。新しい学校でも伝統芸能を受け継いでほしい」と保存会は望みを託す。

今年6月には、新潟県で開催された「第64回全国国民踊講習会」の指導種目に選ばれ、4人の会員が、全国から集まった約400人の民謡愛好者や指導者に向けて実技指導を実施した。講習会は、全国の中で埋もれ行く民謡の継承と普及を目指して開催されており、指導に当たった岩渕美江子さん＝東和町錦織5区＝は「全国から選ばれた8演目の中でも特に難しいと評された踊りでしたが、受講者の皆さんに熱心に取り組んでいただき感動しました」と振り返る。保存会長の菅原健さん＝東和町錦織6区＝は「地元で長く愛される嵯峨立甚句を全国に発信できたことは大変名誉。これからも継承活動にまい進したい」と士気を高めた。

地域から響く唄と踊りは脈々と継がれている。

編集後記

▼私は市外出身ということもあり、登米市の農畜産物の種類の豊富さやおいしさには、日々感動を覚えています。普段の買い物でも、食材は産直コーナーから見ていることが多いのですが、特集の取材を通じて、より意識的に市内産の食材を選んで購入したいと思いました。来たる食欲の秋には、心おきなく肥えていく所存です。(添田)

▼表紙の写真は佐沼夏祭りで出会った一コマ。獅子舞には悪魔払いや疫病退散の意味があり、頭をかんでもらうことによって邪気を食べてくれると考えられているそうです。大泣きしていたこの子の健やかな成長をお祈りしています。(高橋)

▼何を隠そう嵯峨立出身の私。小さい頃から慣れ親しんだ甚句の響き。唄も踊りも体に染みついています。記事では1番の歌詞を掲載しましたが2〜5番もしみじみ良いのです。ぜひ聴いてほしい。大好きな地元の伝統文化が、多くの人の心に届きますように。(渡邊)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災情報などを配信)
<https://plus.sugumail.com/usr/tome/home>



登米市公式 LINE
(防犯、防災、市政、イベント情報などを配信)
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>